

生活と文化

選 択

開講年次：2年次後期

科目区分：講 義

単 位：2 単 位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：本講義では、人とその社会から生み出されてきた生活や文化の諸相に注目しながら、今後の地域社会のあり方について論じてゆく。人は一人きりで生きているのではなく、自然や社会、そして長い時間をかけて醸成されてきた地域の文化や風習、歴史とともに生きている。自分たちを包み込んでいる、これらの“見えないもの”の存在を理解し受容することにより、私たちは心の安寧を保ち、豊かな心を育むことができるのかもしれない。本講義は、毎回提出を求めるミニツツペーパー等により、率直な発言を導き出しながら、地域社会に対する確かな認識力と主体的な思考力を養うことを狙いとする。

■**到達目標**：①多様な生活や文化の諸相に対する好奇心と理解力を養う。
②豊かな人間観や生活観を養う。
③社会活動に対する積極的な姿勢を育む。

■**担当教員**：

蓮見 孝

■**授業計画・内容**：

- 第1回 宿命と祈り
- 第2回 アニマとしての神々と信仰
- 第3回 弔いと地域コミュニティ：雪の墓標
- 第4回 食文化としての「設え」：小津安二郎の「お茶漬の味」
- 第5回 生業の変容
- 第6回 現代社会のかたち①：産業技術の発展
- 第7回 現代社会のかたち②：高度消費社会の形成
- 第8回 C・チャップリンの「モダンタイムス」
- 第9回 ポスト現代社会の規範：ポスト「熱い社会」
- 第10回 価値観の変化：3つのQ
- 第11回 「QUEST価値」とまちづくり
- 第12回 「共生社会」の生活と文化
- 第13回 TCMとショップモビリティ
- 第14回 「ウェルネス」とホスピタルデザイン
- 第15回 まとめ

■**教科書**：教科書は使用しない。板書をするので、ノートをとること。

■**参考文献**：蓮見孝『マルゲリータ女王のピッツァーかたちの発想論』筑波出版会 1997年
蓮見孝『地域再生プロデュースー参画型デザインングの実践と効果』文真堂 2009年
長谷川宏司編『多次元のコミュニケーション』大学教育出版 2006年
筑波大学感性認知脳科学研究プロジェクト編『感性認知脳科学への招待』筑波大学出版会 2013年

■**成績評価基準と方法**：レポート（50%）、ミニツツペーパーと出席状況（30%）、授業態度（20%）で総合的に評価する。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
レポート	◎	◎	◎	講義内容の理解度、主体的思考力、資料収集への積極性等によって評価する。	50%
ミニツツペーパー	○	○	○	講義内容の理解度、好奇心を、内容から判断する。	30%
授業態度				ディスカッションへの参加度合いと出席状況を合わせて評価する。	20%
発表					
作品					
出席				6回以上の欠席は不可	
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：理屈で理解しようとせず、好奇心をもって素直にテーマと向き合ってみよう。講義を受けた上で、自分なりの視点・論点を考えて見よう。